

特集 おなじ命 地域猫

同じ命でも飼い猫とノラ猫では、天国と地獄。また、家族がいた飼い猫でも、うっかり外に放したばかりに、もう二度と戻ってこないケースも多々あります。猫は人間との暮らしが長い歴史があります。野生動物のように生きてはいけません。過酷な毎日を送るノラ猫にその日を生き延びれる保証はなく、飢えや寒さ、虐待など厳しく辛い日々を送っています。これから暖かくなる春は猫たちの繁殖時期です。これ以上不幸な命を増やさないためにには、いつどうしたらいいのでしょうか。

猫の飼育について

犬と共に猫は私たち人間にとてなくてはならない伴侶動物です。猫は犬と違ってご主人に服従するのではなく、独自の生活を大切にする生き物ですが、社会的な関係をつくり、仲間同士の友好な行動も見られたりします。また、猫は個人的な縄張りや行動圏を大切に考えています。犬のように散歩がないせいか、自由に外に放す飼い主も少なくありませんが、そのまま行方不明なったり、交通事故、猫同士の喧嘩、感染症に罹ったりと外は危険がいっぱいです。また、去勢・不妊手術をしていない猫は、繁殖期には本能から異性を求める必死に外に出ようとします。飼い主のなかには、健康な身体に入れることに抵抗のある方もいますが、猫が人間社会でトラブルなく暮らすため、高齢になって病気のリスクを減らすため、何よりも行き場のない不幸な子猫を増やさないようにする意味において

※マイクロチップは動物の身体に挿入する微細なカプセルで、世界で唯一の番号が記録されています。保健所や動物病院などにある読み取り器(リーダー)で番号を読み取り、個体識別を行います。
災害や逸走など万が一の時には、外れる心配がないので最も有効です。



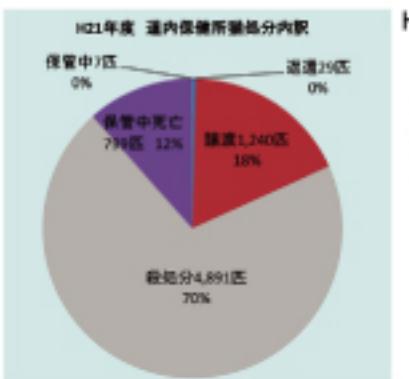
飼い主のいない猫との共生を

猫に関する問題はなかなか解決策が見つからないのが現状です。正直、私たちしっぽの会も試行錯誤ですが、始めなければ何も変わらないと第一歩を踏み出しました。地域にはノラ猫に迷惑し快く思っていない人、不幸な命に心を痛めている人など、人それぞれ様々な考え方の方がありますが、飼い主のいない猫は、もとを正せば飼い主がいたわけですから、途中から過酷な運命を辿ることになった云わば犠牲者です。また、別な地域の人が、餌だけ置いて立ち去る話も良く耳にします。しかし、これでは不幸な猫たちはいつまでたっても減りません。関わるなら地域住民の理解を得て、地

域住民のお手伝いをする立場として参加すべきでしょう。あくまでも、地域住民が主体となり、地域の実情に沿ったルールで取り組んでいかなければ、地域猫の活動を継続していくことは難しいのではないでしょうか。個人でノラ猫を捕獲し、病院で去勢・不妊手術を施して面倒をみている方は、経済的な負担も大きいうえに、年齢が高くなつて続けられなくなった方も多く、個人で続けていくのは労力と経済力が必要で、並大抵のことではありません。では、ノラ猫を命のあるものとして排除するのではなく、不幸な命を減らし共生していくにはどうしたらいいのでしょうか。

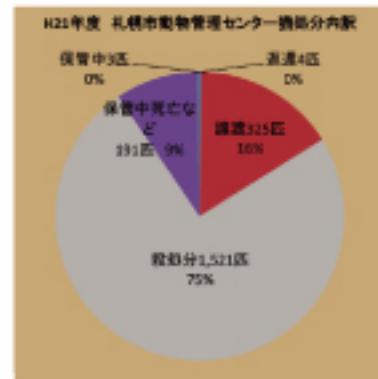
道内保健所の猫の現状

北海道内の保健所に収容される犬猫のうち、猫が占める割合は6割、札幌市では8割にも達します。また、一昨年、保健所に収容された猫のうち飼い主のもとに帰ることが出来た猫は北海道では29匹、札幌市ではたったの4匹と返還率は0%。年々譲渡される猫は増えていますが、全体からみるとまだ少数で、ほとんどの猫が殺処分されています。また、その多くは目も開いていないような子猫です。



H21 道内保健所猫数
引取り数 6,966匹
(内訳 放棄 1,901匹・
飼い主不明 5,065匹)

返還 29匹
譲渡 1,240匹
殺処分 4,891匹
保管中死亡 799匹
保管中 7匹
生存率 18%



H21 札幌市保健所猫数
引取り数 2,044匹
(内訳 放棄 600匹・
飼い主不明 1,444匹)

返還 4匹
譲渡 325匹
殺処分 1,521匹
保管中死亡 191匹
保管中 3匹
生存率 16%

地域猫ってなに?

地域猫とは地域の理解と協力を得て、地域の合意と認知が得られている、特定の飼い主のいない猫をいいます。地域猫の取り組みの最初は、横浜市磯子区でスタートしました。平成9年4月、「磯子区ホームレス猫防止対策事業」が始まり、猫問題を話し合う「ニヤンボジウム」(区民と考える猫問題シンポジウム)が開催されました。猫嫌い派と猫好き派の区民が集まって、意見をぶつけ合いながら、お互いの妥協点を模索し、「猫の去勢・不妊手術の徹底と飼い主がルールを守ることが大事」といった方向が見えてきました。こうして平成11年3月、地域猫の実践方法も盛り込んだ



「磯子区猫の飼育ガイドライン」が制定【4月発効】され、8月には「猫の飼育ガイドライン推進協議会」が設立、会長は地元の獣医さんが就任しました。それから14年ありがたがち、今では東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、福岡県などの多くの自治体で実施され成果を上げています。地域猫の考え方は長い目で見ると大変に有効な考え方です。確実に捨て猫を減らすことが出来、ちいさな命を大切にすることで、地域に住む青少年の健全な精神の育成にも一役買っているといえるのではないでしょうか。人が中心の生活環境では、ノラ猫たちも行き場を失っています。そもそもノラ猫は、人間が関与して生み出されたものですから、解決の道はあるはずです。

地域の中で互いに違った立場や考え方でも、命を大切にすることは合意できるところだと思います。飼い主のいない猫対策は、活動を理解していただくためのPR活動から始めてみては如何でしょうか。①飼い猫は屋内飼育する②万が一の逸走にそなえ身元が判明できる連絡先が明記された首輪や迷子札を付ける。③行き場のない不幸な子猫を産みださないよう飼い猫に去勢・不妊手術を施す。地域環境の観点で回覧板などを利用させていただくのもいいかも知れません。また、地域のコミュニケーションは何より大切です。東京や横浜では、不用品を持ち寄ってバザーを開き、手術代を捻出している町内会もあって、ノラ猫問題がきっかけとなって地域がまとまつたとの意見もあったそうで

す。問題は多々あると思いますが、ノラ猫といえどもひとつの命を持っています。動物を殺すことは誰にとっても気持ちのいいものではないはずです。目の前から排除するのではなく、命あるものが一代限りの生を全うできるように、地域の住民同士が連携し行動することでノラ猫問題解決の道が見つかるのではないかでしょうか。

※当会では捕獲機の貸し出しを行っています。また、地域猫活動してくださる地域住民(3名以上の団体)に去勢・不妊手術の一部を援助する助成金制度があります。しっぽの会までお問い合わせください。

